

演題名	施設内廃棄分におけるゴミ処理コストの削減		
施設名	ライフケアガーデン湘南	(ふりがな) 発表者(職種)	わかつきみつる 若月 美弦 (介護士)
(ふりがな) チーム名	えるしーじーさみっと LCGサミット		
分類	④無駄の削減や能率向上、業務環境の改善をめざすもの		
取り組み種別	問題解決型		
改善しようとした 問題課題	様々な運営コストがある中、施設負担100%の廃棄物処理費用は、 ご入居者の増加に伴い増大傾向である為、有料ゴミ処理コストを削減したい		
改善の指標と その目標値	(指 標) 有料ゴミ処理コストの減量比率 (目標値) 昨年度の平均4.5%を上回る 5%にする		
実施した対策	①可燃ごみのうち0円になる古紙類を完全分別する仕組み作り ・分別用ゴミ箱の設置 ・分別ルールの可視化 ・コスト意識・分別意識の啓発として毎月の処分費用を掲示 ・職員全員参加で、無理なく続けられる仕組み作りとアイディアの実行 ②可燃ごみは重量計算で請求される為、軽量化する仕組み作り ・植栽ゴミの乾燥		
改善指標の 対策実施 前後の変化	(実施前) 古紙類は段ボール以外の分別をしておらず、可燃ごみで処分していた為、 1キロ当り32円かかっていた。段ボールのみの分別による減量比率は4.5%程度であった。 (実施後) 古紙として引取り可能な物を完全分別することで、0円引取りを増量。 これにより減量比率が5%以上となり毎月300～400kg分の費用負担が減らせた。		
歯止めと 標準化	・普段家庭で行っているように事業系のゴミにも分別意識をもつよう意識改革したことが 歯止めとなった。 ・「ゴミを出さない人はいない」をモットーに、分別は特定の職員だけが行うのではなく 職員全員が各自責任を持って関わることで標準化できた。		
活動の種類 ※複数選択可	②複数の職場が連携した活動 ④組織全体で取り組んだ活動	チーム メンバー (職種)	1 飯島 潤 介護福祉士 2 若月 美弦 介護士 3 金子 秀紀 介護福祉士 4 佐々木 香世子 介護士 5 鈴木 栄美子 看護師 6 田村 絵里 事務 7 菊池 詩穂 栄養士 8 皆川 芳彦 施設管理 9 浅原 富美子 通所)介護福祉士
活動の場 ※複数選択可	②支援部門 ③管理部門 ④その他		
活動期間	令和5年4月 ～ 11月		
リーダー名 (職種)	飯島 潤 (介護福祉士)		
活動回数	15		回

【現状把握】

施設負担100%の廃棄物処理は入居者増加に伴い増大。コスト削減の必要がある。

施設内廃棄物は、一般廃棄物、感染ゴミ、医療廃棄物、の3種類で2社に委託している。

感染ゴミと医療廃棄物は、感染症発生によって変動がある為、今回は一般廃棄物に着目。昨年は200万円以上であった。

一般廃棄物の内訳を検証。可燃ごみは、分別により削減可能と判明。段ボール以外の5種類は未分別であった。

分別すれば 処分費 1キロ32円が 0円にできる。



【目標設定】

有料ゴミ処分コストの減量比率を

「令和5年11月までに 5%にする」とした。



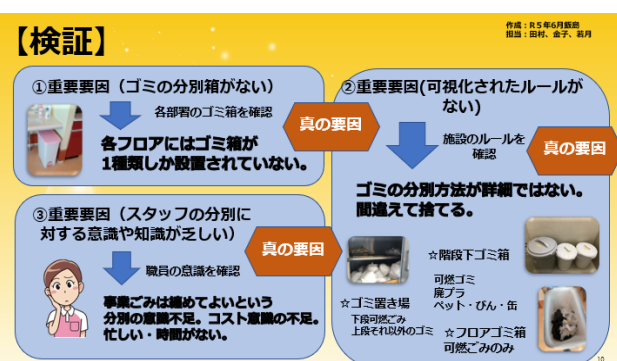
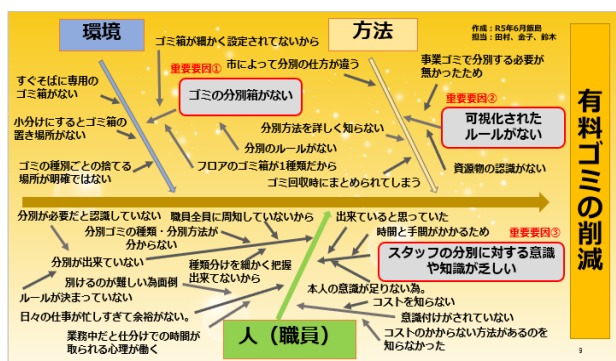
【要因解析】

問題点を特性要因図に整理、下記3点を重要要因とし検証。

- ①ゴミの分別箱がない
- ②可視化されたルールがない
- ③スタッフの分別意識や知識が乏しい

検証により、下記3点を真の要因と認定。

- ①各フロアのゴミ箱が1種類しかない
- ②ゴミの分別方法が詳細でない
- ③事業ゴミはまとめてだせるという認識の誤り、コスト意識不足



【対策の立案と実施】

重要要因に対し、3つの対策を計画し実施。



- ①各階スタッフコーナーに分別用ゴミ箱を設置
- ②1F階段下にゴミの一時集積所を設置
- ③入居者のゴミ分別の為、訪室カートに分別袋設置

【対策の実施②】

分別用ラベルの設置

【ミックスペーパー 専用】

※適用：普通紙・コピー用紙・複写紙・FAX紙・色紙・厚紙等（以下）

- ・事務用紙（A4・A5）
- ・コピー用紙（A4・A5）
- ・複写紙（A4・A5）
- ・FAX紙（A4・A5）
- ・色紙（A4・A5）
- ・厚紙（A4・A5）

※適用：新聞紙・雑誌紙・新聞紙・新聞紙・新聞紙

※適用：新聞紙・雑誌紙・新聞紙・新聞紙・新聞紙

※適用：新聞紙・雑誌紙・新聞紙・新聞紙・新聞紙

※適用：新聞紙・雑誌紙・新聞紙・新聞紙・新聞紙

【コピー用紙 専用】

※適用：普通紙・コピー用紙・複写紙・FAX紙・色紙・厚紙等（以下）

- ・事務用紙（A4・A5）
- ・コピー用紙（A4・A5）
- ・複写紙（A4・A5）
- ・FAX紙（A4・A5）
- ・色紙（A4・A5）
- ・厚紙（A4・A5）

※適用：新聞紙・雑誌紙・新聞紙・新聞紙・新聞紙

※適用：新聞紙・雑誌紙・新聞紙・新聞紙・新聞紙

※適用：新聞紙・雑誌紙・新聞紙・新聞紙・新聞紙

※適用：新聞紙・雑誌紙・新聞紙・新聞紙・新聞紙

シュレッダーへの表示



シュレッダー用紙は半紙でまとの裏面にのみゴミ票を貼へ

ゴミ回収の流れを
ルール化し掲示



- ①分別ラベルを作成。各フロアや一時集積所に設置
- ②シュレッダー屑は単独回収の為、本体ヘルルを表示
- ③ゴミ回収の流れを周知するため、ルールを表示

【対策の実施③】

作成：R5年6月最終
監修：田村、金子、沢月

**LINE WORKSの掲示板で
職員向けにルールを周知**

**コストの意識定着の為
毎月の費用を掲示
(1F階段下入口)**

**最終集積場所(屋外物置)
に分別ルールを表示
※A社回収場所**







- ① 分別ルールはLINEWORKSを利用し全職員に周知
- ② コスト意識の定着は、1階階段下入口に毎月の経費を
掲示
- ③ 確実な分別収集の為、最終集積所にも分別ルールを
表示

【中間確認】 対策実施後、古紙回収分は増加しても目標に及ばず更なる対策を検討。

【追加対策①】

牛乳パック

☆200mℓパックバック（10時の水分補給用）

- ・提供枚：一日平均 40～50個
- ・食料引取りには、洗浄・乾燥・開く作業が必要で場所と手間がかかる上、そもそも引取り先がない。（乳業メーカー・処理業者とも引取り不可）
- ・200mℓパックバック提供を廃止し、1ℓパックから配布することが可能
- ・4フロアで提供時に配布するが、管理面、衛生面に問題がある為、見送り。

☆1ℓパック（調理用）に使用

- ・ひと皿 20～30個使用
- ・リサイクル可能な古紙として引取り可
- ・洗浄・乾燥・開く作業は業者さんが通常の作業の合間で可能

可燃ごみ減量対策：栄養料の取り組み

食品残渣物

作成：15年8月10日最終版
監修：梅田、田村、金子、沢村

☆残量指定を減らす。

- ・この店者提供では、毎月栄養介護にて届達最量と食形態を提示しており、体調による残渣はやむを得ない。
- ・近み込みの端材は食料を適宜変更している為、これ以上の減量は見込めない。
- ☆重量の軽減
 - ・水分との分量はザルを使ってよく絞って捨てている
- ☆リサイクル（豚の飼料の原料としての引き取り）
 - ・専門業者へ人見依頼の結果、引取りプラス加工費がかかるためコストが判明

現在 32円 / k g
⇒ 引取り(23円)＋加工費 (27円)＝ 50円/kg

栄養科の追加取組み

- ①牛乳パック
- ・200mlパックは引取不可であったが
 - 1ℓパックは洗浄・乾燥・開く手間をかけ回収可能とした。
- ②食品残渣物
- ・以前から対策済みでこれ以上の減量は見込めない
 - ・動物飼料へのリサイクルは加工費用がコスト増の為、見送りとした。

【追加対策②】

植 栽

☆ 植栽の乾燥による重量軽減

可燃ごみ減量対策：施設管理の取り組み

採 用

① 袋一杯の植栽を一週間乾燥後、重量測定

刈り取り直後

⇒

10.2kg

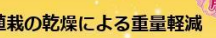
乾燥後

⇒

6.0kg

- 4kg

② 毎回乾燥前後に計測し、廃棄量リストに記録



施設管理の追加取組み

- ・植栽ゴミは一定期間乾燥し軽量化する。

【追加対策③】

オムツ使用量の見直し

可燃ごみ減量対策：介護・看護の取り組み

『オムツ使用量の増加＝可燃ごみの増加』である為

作成：15年10月編纂
監修：鈴木、金子、西村、佐々木

① オムツメーカーのブランド・スイッチ（2021.9月）

目的：高性能のオムツ・パットに変えることで使用枚数の減量を図る
方法：対象者の尿量測定を行い、最適なオムツ・パットを決定

② 夜間の定時排洩交換時間の見直し（2021.11月）

目的：高性能のオムツ・パットを使用することで交換回数を減らす
方法：対象者の睡眠リズムと使用量を記録し、睡眠を妨げず濡れも起こらない時間へ変更

③ 排泄委員会による見直し（毎月）

排泄委員会のメンバーが対象者のオムツ・パットの使用方法を確認し、毎月の会議にて評価・分析を行っている

④ 日中はトイレ誘導を促しパット使用量を減らす（毎日）

結果：既に減量化できている

結果：既に減量化できている

現状：使用量が減っている事もあるが、新入居者のオムツ使用率が高く、すでに入居されている方々のADLの低下もあり使用枚数は増えている

現状：トイレ誘導するも既に排泄済みの方もあり、思うような減量には至らず

介護・看護の追加取組み

- ・オムツの使用量に着目(使用量＝可燃ゴミ)
2021年のブランド変更で尿量測定や使用量の見直し、適切なトイレ誘導等がすでに実施済みで、これ以上の削減は衛生管理上不適切と判断し見送りとした。

【効果の確認】

【効果の確認①】

☆ 2023.5月～10月 可燃ごみ減量分の一覧表

	未分別の場合の量 A	実際の請求量 B	古紙回収分 C	植栽減量分 D	C+D計	減量比率
5月	8,200Kg	7,810Kg	390Kg	—	390Kg	4.75%
6月	6,457Kg	6,154Kg	299Kg	4Kg	303Kg	4.69%
7月	7,069Kg	6,793Kg	276Kg	※植栽なし	276Kg	3.90%
8月	7,418Kg	7,018Kg	380Kg	15Kg	395Kg	5.32%
9月	5,379Kg	5,000Kg	379Kg	※植栽なし	379Kg	7.00%
10月	5,920Kg	5,522Kg	394Kg	4Kg	398Kg	6.72%

※ 未分別の場合の量A = 実際の請求量B + 古紙回収分C + 植栽減量分D
※ 減量比率 = (C+D) ÷ A × 100

活動開始から6か月間の請求金額から減量比率を計算し
平均値を算出した。

【効果の確認②】

減量比率（5月～10月）⇒ **平均5.4%**

削減した経費 6か月合計 **68,512円**

初期投資（メタルラック購入費）16,429円を差し引いても

52,083円 節約成功!!

地道な節約で **年間約137,000円**の経費削減見込

サステナブルな活動を構築

その結果、平均5.4%となり目標達成。
金額に換算すると、今後年間137,000円の削減が見込める
サステナブルな活動が構築できた。

【無形効果】

職員のゴミ減量に対する意識が向上
⇒ **様々な提案やアイデアがよせられた**

＜具体例＞

- ① 再購入の物品は出来るだけ詰替えタイプを選びパッケージゴミの減量に。
- ② 古紙類を束ねるビニール紐は、リネン納品時の束ね紐をリユースする。
- ③ 穴あけパンチの紙ゴミはシュレッダーゴミとして出す。
- ④ 高額な引取料の不燃物（粗大ゴミ）の分別ルールを再構築し減額をはかる
- ⑤ 厨房納品時の発泡スチロール箱は、廃棄せず“通い箱”として業者へ返却。

古紙類以外にも様々な提案やアイデアが寄せられ
職員のゴミ減量に対する意識の向上がみられた。

【波及効果】

委託業者(A社)は0円で引取る量が増え、一見、減収のようだが、
古紙類を専門買取業者へ持ち込む為、増量は売り上げ増加になる。
よって、MVVの価値(バリュー)

“取引先には「納得を」”

に繋がった

SDGsの目標

“13.気候変動に具体的な対策を”へ

繋がる取り組みとなった

⇒可燃ごみを減らすことで、焼却する際に出る
二酸化炭素(CO₂)の排出量を減らせた

委託業者は分別した古紙類を0円で引き取ることになり
一見減収のようだが、専門買取業者へ持ち込む量が増えた為、
売上増加となり、MVVのバリュー『取引先には納得を』に
繋がった。また可燃ごみが減ることでCO₂排出量が減り
SDGsの目標13番『気候変動に具体的な対策』にも繋がった。

【標準化と管理の定着】

～ゴミを出さない人はいない～

このモットーのもと、一部の職種や職員だけが
汗をかくのではなく、図のように全員が自分事と
して取り組む仕組みができたことで、今後も
活動が継続されていく。

We are One Team!

そして

our team

【反省と今後の進め方】

出されたアイデアは次々と実行したが
大幅な金額の削減に至らずコスト削減の
難しさを実感した。
今後は地道に積み上げた結果を可視化し
「継続は力なり」を実行し成果を上げていく。

ご清聴ありがとうございました

【標準化と管理の定着】

	何を	なぜ	誰が	いつ	どこで	どうする
標準化	コピー用紙・ミックスペーパー等を	資源として廃棄するため	各々の職員	毎日のゴミ捨て時	各フロアの分別ゴミ箱	分別し資源化する
	牛乳パックを	資源として廃棄するため	厨房職員	作業の合間に	厨房	洗浄・乾燥・開いてまとめる
	植栽ごみを	水分軽量化のため	施設管理職員	植栽刈り取り時	施設敷地内	一定期間、乾燥させる
管理	分別された可燃ごみを	正しい分別のため	各々の職員同士	集積場所に捨てる際に	一時集積場所	分別が正しいか確認し廃棄する
	新たな分別が必要なゴミを	正しい分別のため	関係する部署	発生した際	発生部署	分別方法を作成し、伝達する
教育	可燃ごみの分別方法を	入職職員が知るため	トレーナー職員	トレーニング時に	各フロア	説明する
	可燃ごみの処分費を	職員の意識付けのため	事務職員	毎月請求額判明後	1F階段下の非常口扉	グラフで可視化し提示する

24

【反省と今後の進め方】

ステップ	良かった点	悪かった点	今後の進め方
1. テーマ選定	・職員全員で取組みができた ・経費削減を意識出来た		さらに分別や削減できるものがないか検討を行う
2. 現状把握 目標設定	テーマに向けて同じ目標に取り組むことで共通意識が持てた	目標の参考となる数値が分からず可能性の目標にならなかった	取り組みを継続していく
3. 要因の解析	ごみの分別について現状の問題点を知ることが出来た		
4. 対策・立案・実施	・同じ目標に取り組むことで共通意識を持つ事が出来た ・部署ごとに出来る事を考えた	様々なアイデアがあったが経費削減に繋がらないものも多かった	オムツの使用量はADLの向上を目指し、排泄委員と協力し廃棄量の減量を検討する
5. 効果の確認	施設・業者・環境、『三方良し』の結果となった	実施した対策は元々準備が安いため、大幅な経費削減にはならなかった	継続的な対策を考え、さらなる分別、減量を行う
6. 標準化と 管理の定着	標準化により有料ゴミが減った	緩やかな減り方の為、効果が伝わりにくかった	地道に継続した結果を可視化して周知していく